



第73回日本皮膚科学会西部支部学術大会
モーニングセミナー 2

乾癬における 新しい診療様式

2021.10.31 日

8:00-9:00 ハイブリッド開催

C会場 | シーガイアコンベンションセンター
2F 小会議室ジブラルタル 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山



座長

大久保 ゆかり 先生 東京医科大学 皮膚科学分野 教授

川村 龍吉 先生 山梨大学医学部 皮膚科学講座 教授

講演

1

1stバイオ製剤を選択する前に知っておきたいこと

演者 馬屋原 孝恒 先生 岡山赤十字病院 皮膚科 部長

講演

2

外用剤からバイオ製剤まで、 クリニックにおける乾癬トータルケアを考える

演者 伊藤 宏太郎 先生 伊藤皮膚科 副院長

第73回日本皮膚科学会西部支部学術大会は現地とLive配信どちらからでもご聴講いただけるハイブリッド開催となりました。COVID-19流行状況により変更になる可能性がありますので、最新情報を下記WEBサイトよりご確認ください。
第73回日本皮膚科学会西部支部学術大会WEBサイト
<https://www.wjda73.jp/>



本セミナー・ご講演に関するお願い

本セミナー・講演中の録音、録画、カメラ撮影、スクリーンショットはご遠慮ください。また、不正に撮影された写真等をインターネット（Twitter等）にアップロードすることも禁止させていただきます。
ご理解、ご協力の程、よろしくご願ひ申し上げます。



講演

1

1stバイオ製剤を選択する前に知っておきたいこと

演者

馬屋原 孝恒 先生 岡山赤十字病院 皮膚科 部長

慢性の炎症性皮膚疾患において、本邦では2020年からJAK阻害薬の外用や内服の治療を選択する機会を我々は得られるようになってきている。確かにバイオ製剤と異なり、低分子化合物のため免疫原性を考慮せず再投与・中断がしやすいとはされる。ただ、とりわけ内服薬は安全性プロファイルなどまだまだ注意しなければいけない点はいくつもあると思われる。

一方、乾癬バイオ製剤においては、この10年で10製剤が上市され、作用機序や効果など多くのことがわかったことで、より良いコントロールにもつながっている。さらに、バイオ製剤に免疫原性があると言っても、免疫原性が低いものとそうでないものとに別れることもわかってきた。

そのような中、乾癬バイオ選択において、長期的な視野に立ち、使用する製剤の順番などを考慮しなくてよいのだろうか。他科領域からみても現在最も多くのバイオの選択肢を持つ我々だからこそ考えることがあるのではないかと。本講演では、バイオナীব乾癬症例により良い治療を提案する前に考慮すべき点、特にバイオ製剤の免疫原性、免疫原性が引き起こす薬剤間への影響、長期安全性データや投与年齢などにも着目しつつ、最新の知見を交え考察する。

2008年 東北大学医学部医学科卒業
2008年 総合病院 聖隷三方原病院 初期研修
2010年 浜松医科大学 皮膚科 医員
2012年 市立島田市民病院 皮膚科 医員
2015年 浜松医科大学大学院(皮膚科学)入学

2017年9月 磐田市立総合病院 皮膚科 医長(大学院と併任)
2019年4月 浜松医科大学 皮膚科 助教
2020年4月 岡山赤十字病院 皮膚科 医長
2020年8月 岡山赤十字病院 皮膚科 部長

講演

2

外用剤からバイオ製剤まで、
クリニックにおける乾癬トータルケアを考える

演者

伊藤 宏太郎 先生 伊藤皮膚科 副院長

乾癬診療を取り巻く環境の進歩が著しい昨今、我々皮膚科医は患者のなりたいた姿を起点として様々な選択肢を提案できるようになってきた。例えば、日本皮膚科学会でも生物学的製剤の導入や維持における要件が緩和されたことも大きな要因となっている。緩和により、クリニックの承認施設が増加し、患者へ生物学的製剤を含めた治療提案が可能となっている。

一方、生物学的製剤を投与しても残存する難治皮疹が存在することも事実であり、残存する部位や一旦治った後に再発する皮疹は患者のQOLを大きく低下させる可能性がある。本セッションでは、皮膚科医としてのクリニックでの生物学的製剤導入のメリットと、難治皮疹に対する外用剤から生物学的製剤までを含めたトータルアプローチについても考察してみたい。

2003年5月 福岡大学病院皮膚科臨床研修医
2004年7月 福岡大学病院救命救急センター臨床研修医
2007年10月 福岡大学病院皮膚科助教
2013年10月 福岡大学医学部 皮膚科学 講師

2017年4月 伊藤皮膚科副院長
福岡大学医学部 皮膚科学 非常勤講師
2020年9月 福岡大学博士号(医学系)取得
2021年4月 福岡大学皮膚科臨床准教授